

## 第1回検討会議で出された意見と論点

	第1回検討会議での主な委員意見	考え得る論点	備考
総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>招致を成功させるための3つのポイント：①博覧会は人類社会と地球規模の課題解決の場、②後進国の共鳴するテーマ設定、③WHOをはじめとした国際機関との連携・連帯、そこからの支持（澤田委員）</li> <li>ライバルの様子も見ながら、どうやって優位性を出すかといった戦略を持ってやらないといけない。（溝畑委員）</li> <li>博覧会に関しては、イベント・オリエンテッド・ポリシーの下に考えるべき。要は万国博覧会をすることが目的ではなくて、我々がその先にこういうことをするべきだ、するんだということを持った上で、その手段として博覧会があるということ。（橋爪副座長）</li> </ul>		
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>近い将来国際社会が直面する健康の問題について、日本から課題であることをいち早く提起し、その解決を提案するといった構想が、日本、大阪に求められている。（澤田委員）</li> </ul>	健康の問題を世界に先駆けて日本から発信・提案する資格と意義について、どう捉えるか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化の行き先は、少子化であり人口減少。子どもも高齢者も一緒に住めるような、というところが非常に重要なポイントになる。（中谷委員）</li> <li>少子高齢化、人口減少、経済成長の鈍化など、必ず先進国、あるいは全ての国がぶち当たるような壁に日本は一番最初にぶち当たっている。この解決を世界に示しながら、新しい文明の可能性を見せることが、万博のテーマに重なってくる。（宮田委員）</li> <li>これから人口の高齢化は本当にグローバルな問題で、先進国だけではなくて、いわゆる発展途上国においては、今までは感染症が主な死亡原因だったところに、死亡原因のトップの方に慢性疾患がどんどんあらわれている。（秋山座長）</li> <li>少子高齢化は日本の特殊事情で、世界は人口大爆発。ここで我々は新しい長寿の社会のモデルを世界に示す。（橋爪副座長）</li> </ul>	<p>2025年から先を見据えて、世界の今後の人口動向についてどのようにとらえるか。発展途上国の人口増加傾向は今後どのようになるのか。人口減少局面に入る国は今後増えていくのか。</p> <p>2025年から先を見据えて、世界の高齢化は今後どの範囲で、どの程度進んでいくのか。</p> <p>それらを踏まえた、健康の問題はどのようなものが考えられるか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供から始まって、お年寄りになって、最終的にその次の世代へ繋がっていく、シームレスな健康づくりというのがひとつの課題。（森下委員）</li> </ul>	次世代へ健康づくり行動を引き継いでいくという考え方を基本理念にこめられないか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本には「老い」に対する独特の文化があり、それを世界に発信していく、いい機会になる。（太下委員）</li> </ul>	「長寿」の言葉の持つニュアンスをどう世界に発信していいのか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年は、コップ21パリから10年。国連の新しい開発目標2030年まであと5年で、非常に重要な年。（中谷委員）</li> <li>第四次産業革命、ソサエティ5.0とか、人類の文明を超える第三の波（農業革命、産業革命につぐ情報革命）、その完成は民主主義自体を変える、一つの人類の文明を変える流れになると思うが、それが2025年あたりに来るんじゃないかと思う。（宮田委員）</li> </ul>	<p>2025年という年をどのようにとらえるか。</p> <p>その年に健康・長寿をテーマにした万博を開催する意義はどこにあるのか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の中でもう一度日本を元気にする大きな大義のストーリーの中に、位置づけるということが大事。（溝畑委員）</li> <li>なぜ大阪万博か、外側の世界から説得力を出すことが必要。（宮田委員）</li> <li>大阪が復権し、二極の一極を担って、日本を盛り上げていくという意味では、大阪が真ん中になって、各地方のショーケース的な位置づけもしていくことも必要ではないか。（溝畑委員）</li> </ul>	<p>日本、大阪・関西で開催する意義はどこにあるのか。（国内の視点、海外からの視点）</p> <p>あるいは、日本・大阪で開催する必要性について、何かいうことはできるか。</p>	
	名称		名称に対する意見

	第1回検討会議での主な委員意見	考え得る論点	備考
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマは、非常にタイムリー。長寿社会のフロントランナーとしては、日本で開く万博のテーマとしては素晴らしい。(秋山座長)</li> <li>・日本の医療に対する世界の期待は大きく、テーマとしての健康・医療は適切。(渋谷委員)</li> <li>・テーマには、スポーツ産業、健康医療産業、観光、食など、成長戦略のエキスが全部入っているなど、国家の成長戦略にピタッとはまっている。(溝畑委員)</li> <li>・今回設定したテーマは非常に大きな可能性を持っている。(宮田委員)</li> <li>・大阪の平均寿命、健康寿命は、世界から見ると高いのだが、国内ではワースト5に入るほど悪い。ですから、日本の中でも大阪で開催するテーマとしては非常に適切。(荒川委員)</li> </ul>	<p>テーマの設定は適切であるか。</p> <p>(例) 人類(共通)の課題であるか。</p> <p>あらゆる国にとって、解決策を提案できるものとなっているか。</p> <p>日本、大阪が開催する上で、優位性のあるテーマとなっているか。</p> <p>国の施策の方向性とあっているか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを英語に翻訳した時に、長くないか。(齊藤委員)</li> </ul>	<p>テーマの英訳案について</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挑戦という悪いものをやっつけるという感じになるので、挑戦と機会を一緒に言ったほうがいいんじゃないか。(中谷委員)</li> </ul>	<p>「挑戦」という用語を使うことについて。より適切な表現は他にあるか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サブテーマがちょっと抽象的かと思うので、もう少し具体的に書いた方がいいのではないか。例えば『健康づくりができるまちづくり』など。(増田委員)</li> <li>・テーマが複数にわたっており、うまく整理していく必要がある。(森下委員)</li> <li>・テーマそのものは非常によいと思うが、若者に対するアピールと国際社会における認識からテーマを浮き彫りにしてはどうか。(江原委員)</li> <li>・第4次産業革命(モノのインターネット、生物化学、バイオ、ロボット、人工知能など)を前面に引き出すと、若者の未来に対して非常に希望が持てるものとなり、国際的なアピールにもなる。(江原委員)</li> </ul>	<p>サブテーマの設定は適切であるか。</p> <p>(例) 健康・長寿に関連する主な要因となっているか。</p> <p>抽象的なものとするか、具体的イメージがわくものとするか。</p> <p>若者へのアピールの観点</p> <p>他に盛り込むべき項目はあるか。</p>	
事業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の問題は社会変革が非常に重要。国民の12%ないし15%ぐらいが来場する博覧会会場をどう活用していくのか(が課題)。(澤田委員)</li> <li>・医療を中心とした大阪・関西に持っている強み、もしくは日本の課題である少子・高齢化など、博覧会に向けてどう挑戦を加速していくのか、博覧会を社会実験として捉えて、新しい技術や仕組みを社会に実装して可視化し、国内外に発信していくことが重要。(澤田委員)</li> <li>・「社会を変容させる新しい万博」というのは非常に新鮮なアイデア。(中谷委員)</li> <li>・万博本来の価値、ここに来たときにその人たちの価値観が変わるとか、ここに何の意味があるのかとか、そういったものを打ち出す必要がある。(宮田委員)</li> <li>・この万博を通して「健康・長寿」のヒントとなるようなことを発信できれば素敵だなと思う。(増田委員)</li> </ul>	<p>事業展開におけるコンセプトとして、「試案」では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界から「知」を集める</li> <li>・博覧を超えた「参加・体験」</li> <li>・参加する人の行動を呼びおこす</li> </ul> <p>をキーワードとしているが、「社会を変容させる新しい万博」あるいはテーマとしての「健康・長寿」に沿ったキーワードで盛り込むべきと考えるものはあるか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試案の企画は2018年、2019年時点で非常に素晴らしい企画であるが、2025年まで広げた場合どうなるのか、これからの検討会議の大事な宿題になる。(中谷委員)</li> </ul>	<p>2025年ではどのような展開が可能となるか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪、日本に人が溢れかえるようなイベントにして欲しい。(森下委員)</li> </ul>	<p>多くの人に関心をもってもらうための仕掛けは何かあるか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちもびっくりする、喜ぶような中身、コンセプトを作らなければいけない。(齊藤委員)</li> <li>・子供が驚くような企画が必要。例えば建物の中に入ると、人体の中に入ったような、実際、体を勉強する、あるいは病気、あるいは健康を勉強するものを考えられないか。(荒川委員)</li> <li>・子供とか若者に対するアプローチについては、例えば高齢者と子供たちが一緒に文化プログラムでやるとか、いろんな形で展開は可能ではないか。(太下委員)</li> </ul>	<p>子どもや若者にも関心をもってもらい、驚き、喜ぶような事業展開イメージは何か。</p>	

	第1回検討会議での主な委員意見	考え得る論点	備考
事業展開 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本全体で盛り上げていかないといけないということは、たくさんの企業に応援してもらわないといけないということ。その人たちが参加できるようなことを散りばめて、でも全体としては統一感があって作っていくという非常に難しい仕事にこれから皆さんと一緒にチャレンジしていく。(伊吹委員)</li> </ul>	特定の業種にこだわらない幅広い業種の企業に参加してもらうために、どのような仕掛けが必要となるか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>万博では、健康寿命だけではなくて、社会も制度も、働く人の生き方や働き方、暮らし方も含めて、健康であってほしいというものを出示してもらいたい。(渋谷委員)</li> <li>万博の機会をとらえ、大阪府で今後10年間改革に取り組み、社会システムとしての保健医療をつくっていくというところを見せること。(渋谷委員)</li> <li>大阪が世界一健康な都市になって、ショーケースとして世界に示していく、魅力的な生活を追求する中で自然に健康になっていく、新しい健康感というのを社会に対して示すというのが、この万博の中の価値基準になる。(宮田委員)</li> <li>私たちの長寿時代の新しい生き方、それを支える新しい社会のあり方を提案できれば、特にいいなと思っている。(秋山座長)</li> <li>生活シーン、その技術を使って自分たちの人生とか、生活がどう変わるのかなみたいなことを一緒に提示をしていけるとよい。(伊吹委員)</li> <li>東京のビジネスライクな社会とはちょっと違う大阪で、幸せな長寿・高齢の社会を送っていくときの地域のコミュニティってどういうことになるのかな、社会のあり方を提示する。(伊吹委員)</li> </ul>	知事の言う「長寿社会のモデルの発信」にそった、人々のライフスタイル、地域コミュニティから社会システム・制度において、どのような提案ができるか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>テクノロジーを使った先端医療の分野、iPSを使った再生医療だったり、あるいは国際的な観点では感染症予防、あるいはAI、日本の医療が見えるようなもの。(森下委員)</li> </ul>	2025年時点で、医療関連でどのような提案(展開)ができるだろうか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4次産業革命は非常にこのテーマにぴったりに使えるものが多い。(江原委員)</li> <li>生き方の部分で、ロボットとか、ドローン、ウェアラブルなIT、これらの事業はおそらく進んでいると思うので、そういうものも積極的に活用していく。(森下委員)</li> <li>関西の地は、医療技術で世界のトップクラス。また、ロボットも世界でトップクラスの集積地。健康×ロボットみたいなテーマで、ロボットだらけ、健康だらけの会場にはどうか。(玉井委員)</li> </ul>	2025年時点で、日本が強みを有する分野はどの分野であり、健康・長寿に関連して、どのような提案ができるか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトな部分、みんなが楽しめる部分が重要になると思う。食、特に和食は世界文化遺産になったし、食を中心としたテーマ。(森下委員)</li> <li>大阪のいいところ『笑いの文化』がある。健康といたら、笑いは欠かせないと思う。笑いのシアターなどを出したりしてはどうか。(増田委員)</li> </ul>	食その他日本人の健康を維持するライフスタイルで、世界に発信できるものはあるか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3万人でラジオ体操をして、ギネスに挑戦するようなテーマもいいんじゃないか。出来るだけ各世代を通して、みんなの思い出に残るような運動で健康になるというやり方もひとつ。(森下委員)</li> </ul>	お年寄りから子どもまで参加できるようなイベントはあるか。	

	第1回検討会議での主な委員意見	考え得る論点	備考
開催前の活動 理念の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報化社会の中で、会期中だけでなく、その前の準備期間、会期後も含めて、万博の一部とする。（玉井委員）</li> <li>・ 世界から見てすばらしいソフトウェアを今から発信し、あるいは外に打って出ることができるように、サービスとしてうまくパッケージをしていく、こういったプロセスを積むことで、万博が一部の方々のイベントだよねというのではなくて、市民、あるいは産業界が参加できるようなすばらしい万博になると思う。（中谷委員）</li> <li>・ メディアを使った発信というのも割と早い段階から一緒に考えていけたら面白いかな。（伊吹委員）</li> </ul>	開催前の活動や理念の継承に資する活動において、具体的なアイデア	
会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会場の計画は非常に重要。1日に15万人の人が集まる新しい都市を、半年間だけ仮設する上で、技術的にも会場設計の上でも考えなければ、なかなか先へ進めないと思う。（橋爪副座長）</li> </ul>		
広域展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主会場以外の世界との多様なネットワークによる広域展開は、いいこと。（齊藤委員）</li> <li>・ オール関西の視点で、京都や神戸との連携で、そこに行けば、驚きがあるといったものを考えた方がいいのではないか。（齊藤委員）</li> <li>・ テーマパークがあるエリアだけでなく、「うめきた」などの連合としたら、経費もおさえられるのではないか。（玉井委員）</li> <li>・ 食を中心としたテーマの中では大阪だけでなく、関西全体のいろんなセットを使っていて、関西全体で大きなパビリオンができていて、既存のものを使うという仕組みがあるのではないか。（森下委員）</li> </ul>	広域展開で想定される拠点等	
会場整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩きたくなるような会場、また健康になるような会場ということを意識して整備することで、まちづくりのお手本みたいなものはできないか。（増田委員）</li> </ul>	会場整備、ゾーニングで意識すべきことは。	
事業費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 極力費用のかからない方向というのを最初から念頭に置いてもらえると、ありがたい。（齊藤委員）</li> </ul>	事業費圧縮のための方策	